

2020年1月28日  
日興アセットマネジメント株式会社

## 「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)」 2020年1月決算と今後の見通しについて

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご愛顧いただいております「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)」は、2020年1月27日に決算を迎え、以下のとおり分配金を引き下げましたことをご報告いたします。

### 分配実績と基準価額について

| PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)         |              |     |
|-------------------------------------|--------------|-----|
| 分配金                                 | 前期(2019年12月) | 70円 |
|                                     | 当期(2020年1月)  | 50円 |
| 基準価額<br>(税引前分配金控除後)<br>2020年1月27日時点 | 10,138円      |     |

- ※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の、分配金は税引前のそれぞれ1万口当たりの値です。
- ※ 分配金額は収益配分方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

今回の分配金引き下げは、当ファンドが昨年10月にアルゼンチンへの投資比率を削減したことに伴う最終利回り(組入れ証券の利回りを評価額のウェイトで加重平均したもの)の大幅低下(2019年9月末:16.0%→同年12月末:6.6%)を踏まえたものです。利回り水準に照らし、分配金としてお支払いする金額を抑え、信託財産の維持・成長を目指すことといたしました。

次ページ以降では、今回の分配金引き下げの主な背景となった、アルゼンチンへの投資比率削減に伴う最終利回りの低下に加え、足元の運用状況や今後の見通しについて、当ファンドの投資顧問会社であるピムコジャパンリミテッド(以下、PIMCO社)からのコメントをもとにご説明しておりますので、ご一読いただければ幸いです。

なお、「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(1年決算型)」につきましては、2020年7月27日に初回決算を迎える予定です。

今後の分配金額につきましても、引き続き収益配分方針に基づいて決定してまいります。これからも、当ファンドをご愛顧くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本資料は、当ファンドの投資顧問会社である、PIMCO社からのコメントをもとに作成しています。本資料は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)/(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

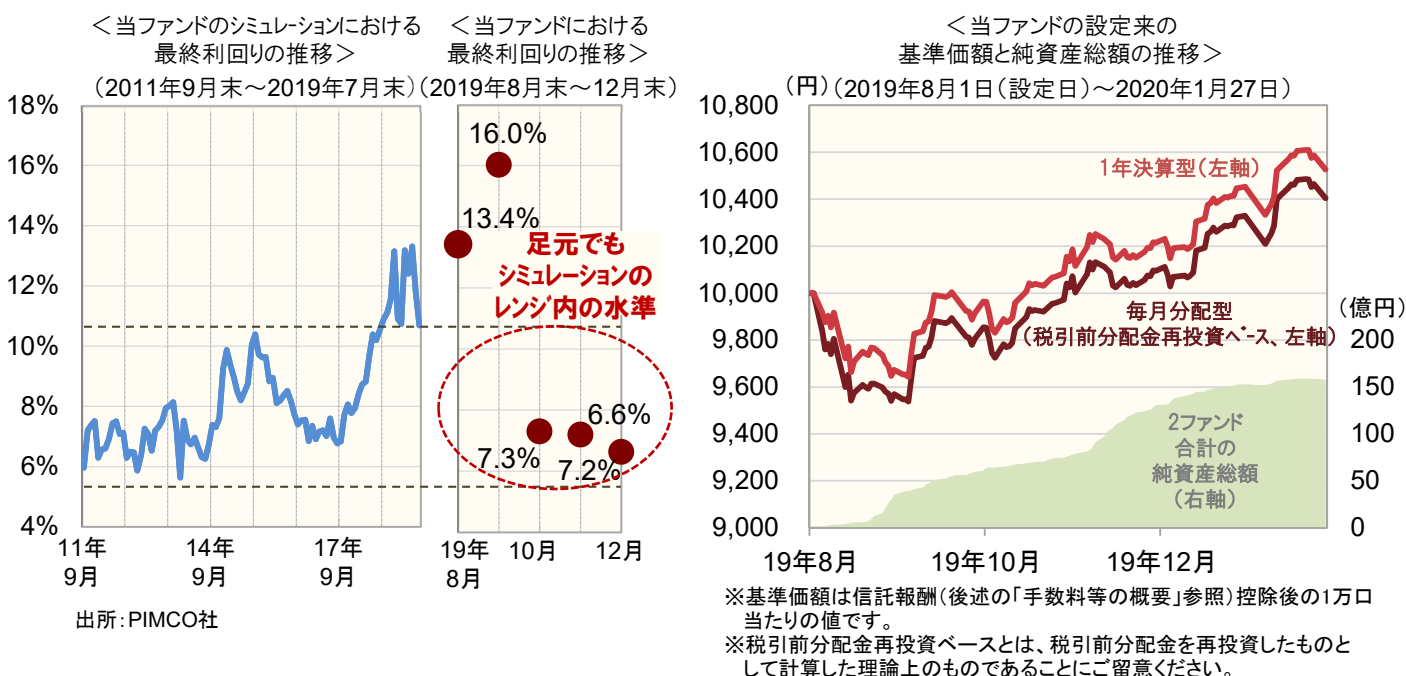
## 分配金引き下げの主な背景と足元の最終利回りおよび基準価額

### アルゼンチンの投資比率削減に伴ない、最終利回りが大幅に低下

- 当ファンドでは、従来、「最悪期を脱する可能性のある通貨」として**アルゼンチンペソ**に投資してきましたが、その**投資比率を昨年10月に削減**しました(通貨別比率:昨年9月末4.3%→同10月末0.2%)。この背景は、昨年10月の同国大統領選挙で野党候補が勝利し、政治的不透明感が極めて高くなったほか、中央銀行が資本規制を導入し、通貨の流動性が著しく低下したことです。
- 相対的に利回りが高いアルゼンチンの投資比率引き下げに伴ない、当ファンドの最終利回りは大幅に低下しました。

### インカム収益面は依然、魅力的、分散投資効果で基準価額は底堅く推移

- 当ファンドの最終利回りは低下したものの、依然、運用開始前のシミュレーションの範囲にあります。つまり、**足元の利回りは想定内の水準にあり、「中長期でインカム収益の着実な積み上げを期待できる」という当ファンドの魅力は持続している**と考えています。(下の左2つのグラフ参照)
- また、当ファンドの基準価額については、米中通商問題への警戒感やアルゼンチンペソの急落の影響などから、昨年8月の設定直後は軟調に推移しました。しかし、9月以降は、**米FRB(連邦準備制度理事会)による連続利下げや米中協議の進展・部分合意などが追い風となり、インカムの積み上げに加えて、通貨分散の効果なども寄与し、堅調に推移**しています。(下の右グラフ参照)



当ファンドのシミュレーションにおける最終利回りは、投資者の皆様にご理解いただくために、主要投資対象である外国投資信託の実質的な運用対象であるPIMCOバミューダエマーシングマーケットハイイールドコーポレート債券ファンド(M)の値と、主要投資対象である外国投資信託と同様の運用が行なわれているPIMCOバミューダエマーシングガレンシーハイインカムファンドJ(JPY)の実績値をもとに50%ずつの投資比率で月次リバランスをした結果であり、実在するポートフォリオの最終利回りの推移ではありません。

※上記は過去のものおよびシミュレーションであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

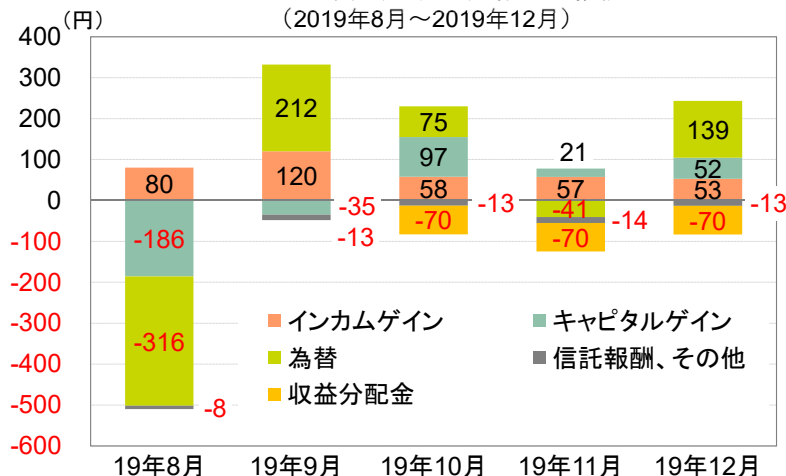
当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

## これまでの運用状況:「毎月分配型」の基準価額の要因分解

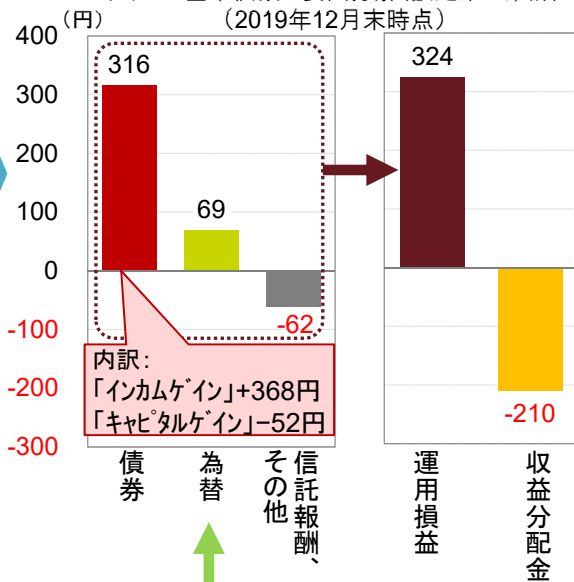
### 為替とキャピタルゲインの振れを、安定的に推移するインカムゲインが補う

- 「為替」や「キャピタルゲイン」は、投資家のリスク選好度(ないし回避度)の変化などを反映し、当ファンドの基準価額に対する影響が大きく振れ易い傾向があります。一方、「**インカムゲイン**」は比較的安定した推移となり、基準価額の押し上げに大きく貢献しています。(グラフA参照)
- 通貨別の設定来の動きでは、投資家がリスク回避に動いた昨年8月にアルゼンチンペソでの損失が膨らみました。ただし、昨年10月の投資比率削減により、同通貨の損益は11月以降、ゼロとなっています。一方、**昨年10月以降、投資家の間でリスク選好の動きが広がったことなどから、アルゼンチンペソ以外の通貨の多くがプラス寄与**となりました。(グラフB参照)
- 設定から昨年12月末までの累計で、「キャピタルゲイン」はマイナスながら、「インカムゲイン」が大きく貢献し、「債券」全体が+316円となったほか、「為替」も+69円となり、信託報酬、その他を引いた「運用損益」は324円となりました。そこから、お支払いした収益分配金を差し引いた114円が、昨年12月末時点と設定時の基準価額(税引前配当金控除)を比べた騰落となります。(グラフC参照)

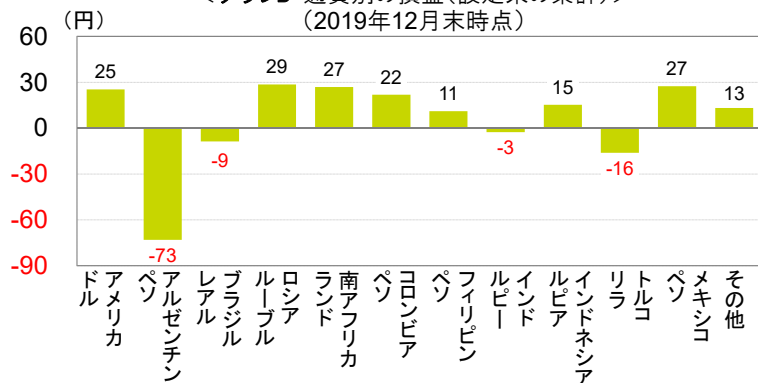
＜グラフA:基準価額の要因分解(月次推移)＞  
(2019年8月～2019年12月)



＜グラフC:基準価額の要因分解(設定来の累計)＞  
(2019年12月末時点)



＜グラフB:通貨別の損益(設定来の累計)＞  
(2019年12月末時点)



|             |         |
|-------------|---------|
| 設定時基準価額     | 10,000円 |
| 2019年12月末時点 | 10,114円 |
| 基準価額の騰落     | 114円    |

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後、分配金は税引前の1万口当たりの値です。  
 ※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものであることにご留意ください。  
 ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。  
 ※上記の要因分解は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。また、四捨五入の関係で合計が一致しないことがあります。その他には計算誤差などを含みます。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)/(1年決算型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

## PIMCO社による今後の見通し

### 新興国の相対的な優位性がより鮮明になる展開が期待される

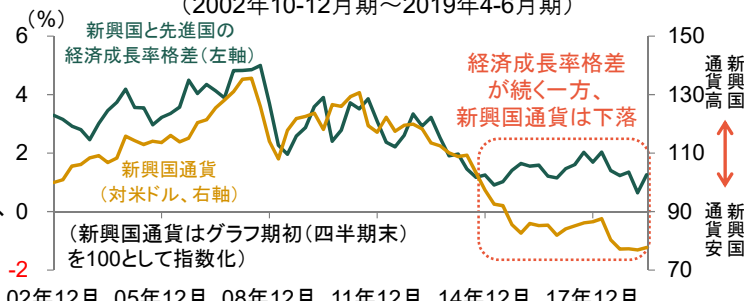
- 米国を中心とする先進国では、景気サイクルが終盤に差し掛かり、景気ピークアウトの兆しがみられるようになってきています。一方、**新興国は、豊富な人口と所得の増加などを背景に力強い消費の伸びが見込まれており、2020年以降も相対的に高い成長力を維持する見通し**です。
- 過去、新興国・先進国間の経済成長率格差が拡大(縮小)すると新興国通貨の対米ドル相場が上昇(下落)する傾向がありました。しかし、近年は、米国での利上げや金利上昇の影響などから、経済成長率格差が拡大する一方で、新興国通貨は上値の重い展開となりました。
- しかし、米国で昨年、利下げが行なわれるなど、金利上昇圧力が和らぐなか、米中協議が進展したこともあり、**今後、新興国・先進国間の経済成長率格差が拡大していく場合、新興国通貨の上昇余地は大きくなる**と考えられます。

＜新興国と先進国の実質GDP成長率の推移＞  
(2018年～2021年予測)

|     | 2018年 | 2019年<br>(推) | 2020年<br>(予) | 2021年<br>(予) |
|-----|-------|--------------|--------------|--------------|
| 新興国 | 4.5   | 3.7          | 4.4          | 4.6          |
| 先進国 | 2.2   | 1.7          | 1.6          | 1.6          |
| 差   | 2.3   | 2.0          | 2.8          | 3.0          |

IMF「World Economic Outlook Update, January 2020」

＜新興国\*と先進国の経済成長率\*\*格差と新興国通貨の動き＞  
(2002年10-12月期～2019年4-6月期)



(新興国通貨はグラフ期初(四半期末)を100として指数化)  
\* 新興国はJPモルガンGPI-EMグローバル指数構成国のうち、JPモルガンELMIプラス指数で為替のリスクを取付可能な国、\*\*四半期ベースの前年同期比

出所:PIMCO社

### 新興国の通知表

- **新興国への投資においては、単一国、単一通貨への投資ではなく、分散投資がリスクを抑える上で重要**です。
- 当ファンドでは、成長ステージの異なる国々に分散投資することで、タイミングに関係なく、新興国全体としての成長を享受することを目指します。

出所:PIMCO社

|            |        | ファンダメンタルズ | 成長性 | 割安度 | 注目のポイント  |
|------------|--------|-----------|-----|-----|--|
| 構造改革<br>機運 | インドネシア | ●         | ●   | ●   | <b>新興国の成長をけん引するグループ</b><br>改革機運の強い政権(インド:モディ政権、インドネシア:ジョコ政権)による政策運営に期待が集まる。                                      |
|            | インド    | ●         | ●   | ●   |  |
| 安定成長<br>路線 | ブラジル   | ●         | ●   | ●   | <b>資源価格にも支えられながら経済成長率の上振れが期待されるグループ</b><br>ブラジルではインフレや経常収支の改善、ロシアでは貿易黒字を背景とした外貨準備の積み増しなど、両国ともファンダメンタルズの改善が続いている。 |
|            | ロシア    | ●         | ●   | ●   |  |
| 底打ち探る      | トルコ    | ●         | ●   | ●   | <b>リスク対比での利回りに投資妙味があるグループ</b><br>2018年以降、大きく売られたものの、足元、トルコではインフレ率の安定化、南アフリカでは改革政権の発足など、底打ちの兆しも見られている。            |
|            | 南アフリカ  | ●         | ●   | ●   |  |

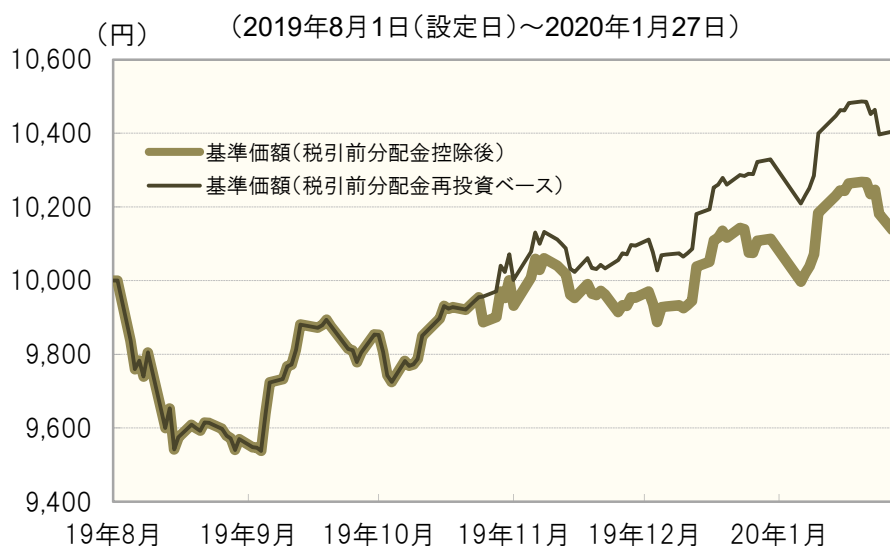
※上記は主要通貨について、テーマごとに分類した例です。

※上記は過去のものおよび資料作成時点での見通しであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)/(1年決算型)」へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

## 基準価額の推移

### 毎月分配型



#### <分配金実績>

|          |     |
|----------|-----|
| 2019年10月 | 70円 |
| 2019年11月 | 70円 |
| 2019年12月 | 70円 |
| 2020年1月  | 50円 |

<基準価額>  
(税引前分配金再投資ベース)  
**10,404円**  
(税引前分配金控除後)  
**10,138円**  
(2020年1月27日現在)

### 1年決算型



#### <分配金実績>

なし

<基準価額>  
**10,527円**  
(2020年1月27日現在)

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後、分配金は税引前の1万口当たりの値です。  
 ※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。  
 ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)/(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

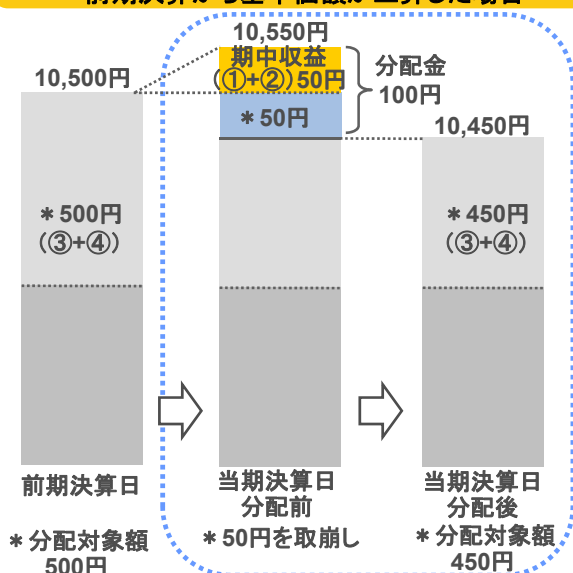
### 投資信託で分配金が支払われるイメージ



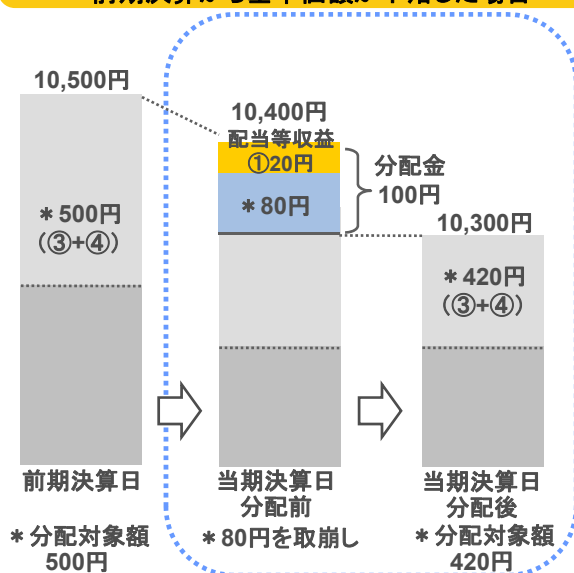
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

#### 前期決算から基準価額が上昇した場合



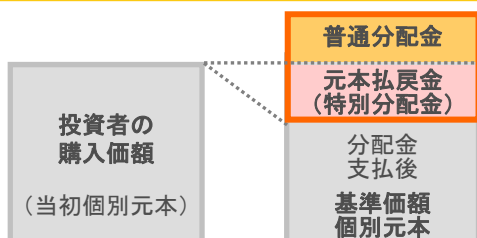
#### 前期決算から基準価額が下落した場合



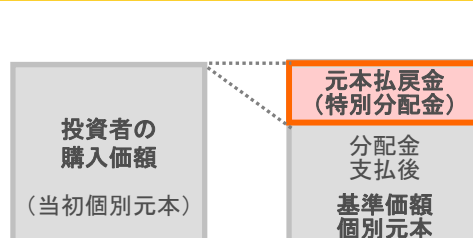
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。  
 ※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

**普通分配金** : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。  
**元本払戻金(特別分配金)** : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

当資料は、投資者の皆様へ「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)/(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

## お申込みに際しての留意事項

### ■ リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

実質的に投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

### 【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】【デリバティブリスク】

※ファンドが実質的に投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

### ■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)/(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

## 委託会社、その他関係法人

|        |  |
|--------|--|
| 委託会社   | 日興アセットマネジメント株式会社<br>金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号<br>加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会                                       |
| 投資顧問会社 | ピムコジャパンリミテッド   |
| 受託会社   | 三井住友信託銀行株式会社   |
| 販売会社   | 販売会社については下記にお問い合わせください。<br>日興アセットマネジメント株式会社<br>[ホームページ]www.nikkoam.com/<br>[コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。) |

### 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

| 金融商品取引業者等の名称 | 登録番号     | 加入協会            |                 |                 |                    |  |
|--------------|----------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------------|--|
|              |          | 日本証券業協会         | 一般社団法人日本投資顧問業協会 | 一般社団法人金融先物取引業協会 | 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 |  |
| 岩井コスモ証券株式会社  | 金融商品取引業者 | 近畿財務局長(金商)第15号  | ○               |                 | ○                  |  |
| 株式会社東京スター銀行  | 登録金融機関   | 関東財務局長(登金)第579号 | ○               |                 | ○                  |  |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 登録金融機関   | 関東財務局長(登金)第649号 | ○               | ○               | ○                  |  |

(50音順、資料作成日現在)

当資料は、投資者の皆様へ「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)/(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

## お申込みメモ

|                |   |
|----------------|---|
| 商品分類           | 追加型投信／海外／債券   |
| 購入単位           | 販売会社が定める単位<br>※販売会社の照会先にお問い合わせください。   |
| 購入価額           | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額   |
| 信託期間           | 2029年7月25日まで(2019年8月1日設定)   |
| 決算日            | <毎月分配型> 毎月25日(休業日の場合は翌営業日)<br><1年決算型> 毎年7月25日(休業日の場合は翌営業日)                                |
| 購入・換金<br>申込不可日 | 販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 |
| 換金代金           | 原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。  |

## 手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

< 申込時、換金時にご負担いただく費用 >

|         |  |
|---------|--|
| 購入時手数料  | 購入時の基準価額に対し3.3%(税抜3%)以内<br>※購入時手数料(スイッチングの際の購入時手数料を含みます。)は販売会社が定めます。<br>詳しくは、販売会社にお問い合わせください。<br>※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。 |
| 換金手数料   | ありません。   |
| 信託財産留保額 | ありません。   |

※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行なえない場合があります。  
詳しくは販売会社にお問い合わせください。

< 信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用 >

|                  |  |
|------------------|--|
| 運用管理費用<br>(信託報酬) | 純資産総額に対し年率1.683%(税抜1.53%)が実質的な信託報酬となります。   |
| その他の費用・<br>手数料   | 目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u> が信託財産から支払われます。組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などが、その都度、信託財産から支払われます。<br>※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。 |

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当資料は、投資者の皆様にご覧いただく「PIMCO新興国ハイインカム債券ファンド(毎月分配型)/(1年決算型)」へのご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。